板谷信議員

問　○町長の財政感覚を問う

質問　行財政運営については、緊縮財政すぎる事を再三指摘してきた。今20年度決算をひかえ、極端な次年度への繰越金が生じている。また、21年度末までに合併後13億くらいの町債残高の減となっている。急激な借金の減額は行政サービスに影響しないか。

町長　今は合併による交付税等の加配を受けている。しかし、合併算定替えも32年で本来の形に戻っていく。このことを考えれば中期的に財政運営を見ていかなければならない。

質問　32年から特別の交付税措置がなくなるから今あるお金は使わないでは、おおざっぱすぎて財政運営といえるのか。今年多くなりすぎた繰越金から1.5億円、支所建設の基金の余り2.8億円は財政調整基金に積み立てることになると思うが、結果貯めすぎになっていないか。

町長　ここ数年の状況は以前の反動が来ていると理解している。今後揺れ戻しが来たときの財源として、この程度の財源は用意しておくべきではないか。

質問　知りたいのは町長の財政感覚である。数値的には極端な黒字になっている。基本的には財政力の弱い当町がどうしてそうなっているのか。ただ将来に備えているという答弁だけでは、大丈夫かなという気持ちになる。必要な事業がないからやらないのか、必要はあるけど財政的に苦しいからやらないのか。

総合支所の窓口

町長　予算の査定の中で上がってきたものを精査して予算をつけていく。必要なサービスあるいは必要な事業は織り込んできた。

質問　予算編成のときはかなりのものが上がってきていると。その要望をどう財政措置するかが財政の考える仕事だと思う。ここ数年かなりの黒字が出ているのに事業を大きくしない。基金や借金残高にここらまでという目標があるのか。

町長　財政調整基金がいくら欲しいという積算根拠はない。一般的な感覚として、現状の基金ぐらいは持っていないとやりにくいと思う。借金も返せるときに返しておくという方針でやってきた。区や団体の要望には、相当な対応をしてきている。

答　○中期的な視点をもって財政運営をする

質問　仕事をしているというのが最近の国からの経済対策事業をいうのなら、これは100％に近い数字で国から財源がきている。本来町の財源ですべき事業を国からの交付金と財源更正することにより、繰越金が増えてしまっている。このような財政感覚が普通と違うのではないか。ちゃんとした理由があるのなら教えて欲しい。

町長　今まで答弁したとおりです。

質問　行政改革について伺う。集中改革プランの実践中であるが、進捗状況はどうなっているか。

町長　質問の職員数については、合併時184人であった正職員数が本年4月1日には163人と、21人の減員となっている。将来には130人体制の運営が確保できるようにしたい。

質問　21人減って、約1.4億ぐらいの経費削減になっている。高いといわれてきた人件費の経常比率も類似団体のものに近づいている。130人まで減らす必要はまったくないのではないか。

町長　今後とも人件費の削減はしていかなければならないと思っている。